

広報 なんこう 南広だより

南但広域行政事務組合

2004

ごみ
特集号

12.20

南但ごみ処理施設整備事業について



もくじ

- 発刊にあたって ————— P2
- ごみ処理基本計画書の概要 ————— P2~3
- 候補地の選定経緯と施設の概要 ————— P3~4

【発行】

南但広域行政事務組合

〒667-0126 兵庫県養父市堀畑550

TEL 079-665-0146(代表)

FAX 079-665-0148

E-mail nantankoiki_01@mtj.biglobe.ne.jp



「南広だより」発刊にあたって

南但広域行政事務組合

管理者 高本 勤
(和田山町長)

今年も残り少なくなってきましたが、住民の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、当組合が運営しております共同電算業務、休日診療所、スポーツセンター、精神障害者小規模通所授産施設等への格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ごみ処理に伴うダイオキシン類問題を契機として、今、全国的にごみ処理施設の集約化が、旧厚生省の指導によって進められています。兵庫県においても「ごみ処理広域化計画」が策定されており、但馬ブロックについては、北但地域、南但地域に分けて施設を統合整備することになりました。そのうち、南但地域で稼働している養父市と朝来郡のごみ処理施設がいずれも更新時期を迎えるため、平成

13年9月から新しいごみ処理施設の建設に向けて計画を進めております。

そのためには、住民の皆様方のご協力をいただき、ごみの分別の徹底と減量化を図っていくことが不可欠であり、分別排出されたごみについては、適正に処理し積極的に資源化を行っていくことが必要であると考えております。これらのことも含めてご理解いただくためにも、当事務組合でのごみ処理施設整備事業の取組状況を住民の皆様にお知らせし、ご協力をいただきたく、このたび「南広だより」を発刊する運びとなりました。

今後、南但ごみ処理施設整備事業を推進していくにあたり、この広報誌の発行が意義あるものになることを願いつつ、住民の皆様方に本事業へのご協力を心からお願い申し上げます。

ごみ処理基本計画書の概要

1 はじめに

南但のごみ処理基本計画は、1市4町（養父市、生野町、和田山町、山東町、朝来町）を対象としています。

内容としては、ごみ処理施設を整備するにあたって、大局的、長期的な視野に立ったごみ処理のあり方を定めており、平成15年3月に策定しています。

計画では、南但地域における現況を踏まえた将来予測に対して減量化目標値を設定。これを達成するための方法について検討を行い、ごみ処理計画としてまとめています。とくに、ごみの分別区分および収集方法に関する事項については、住民代表により組織された「南但ごみ処理広域化検討委員会」の具申事項を反映した内容としています。

2 基本方針

計画では、次のように基本方針を定めています。

- ◆ **住民** 生活様式の見直しによるごみの排出抑制及び分別の徹底を推進する。
- ◆ **事業者** ごみの減量化及び資源の自主回収に努める。

- ◆ **行政** 適正なごみ処理と積極的な資源化を実施する。

3 計画目標年度

計画では、平成30年度を長期目標年度とし、南但地域で整備を計画している「ごみ処理施設」の稼働予定である平成21年度を中間目標年度として設定しています。

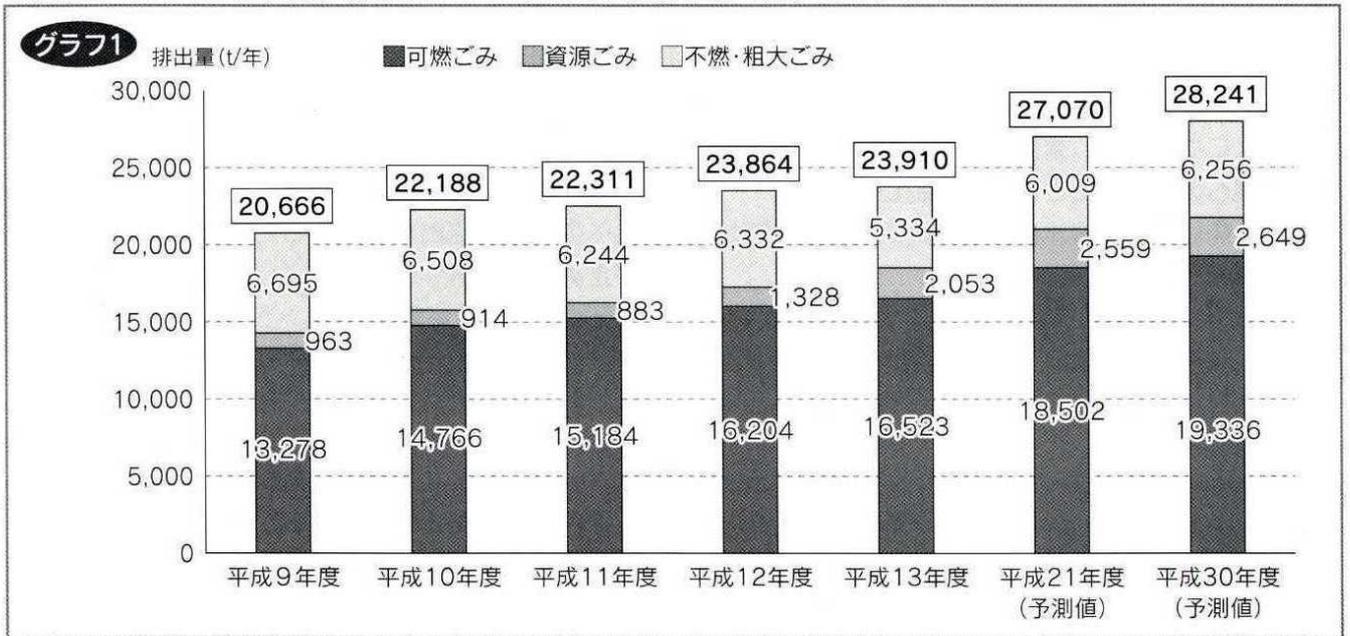
4 南但地域でのごみ排出量の状況

南但地域でのごみ排出量の状況は、グラフ1のとおり増加の傾向にあります。

現状のまま推移するとして予測した場合、ごみの排出量は、平成21年度には約27,000tになる見込みです。

5 減量化目標値

減量化、資源化の目標値は、国、県の目標値を参考に、南但地域では、平成21年度において次のように定めています。（グラフ2）



◆減量化目標

◇主目標

最終処分量を平成13年度に対して32%削減する

◇副目標

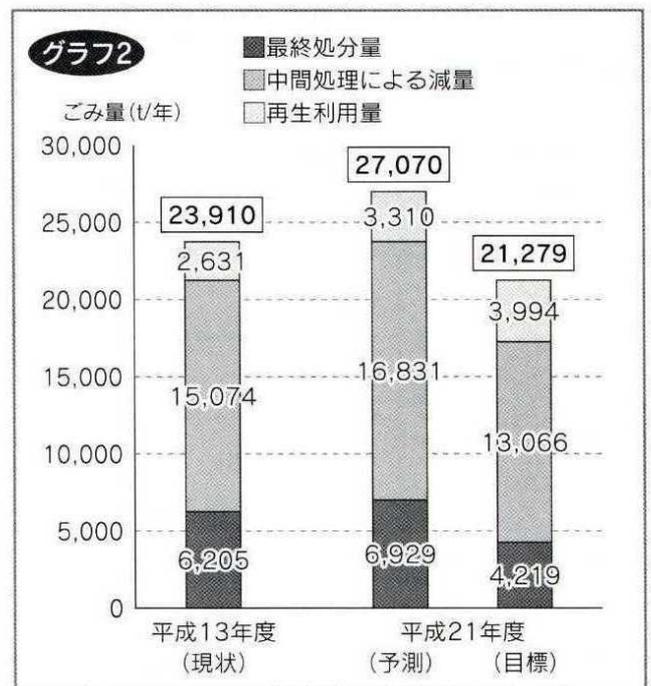
排出量を平成13年度に対して11%削減する

再生利用率を平成13年度に対して9ポイント向上する

焼却量を平成13年度に対して14%削減する

6 ごみの収集方法

現在、養父市・朝来郡において異なっているごみの収集方法については、検討委員会において、できる限り統一する方向で検討が行われ、その結果を踏まえて、ごみ処理広域化後の分別区分及び排出方法を4ページ表1のように定めています。



候補地の選定経緯

各町から2箇所ずつ選定された計16箇所の適地について、一次選定として、立地・社会・環境条件の項目について、既存資料と現地調査によって評価を行い、上位8箇所に絞り込みました。

さらに、二次選定として、立地・自然・環境条件について、別の角度から評価するとともに、経済条件として概算の造成工事費を算出して検討した結果、最終的に最も条件のよい和田山町高田地区が建設候補地として決定されました。

施設の概要

南但ごみ処理施設は、「①可燃ごみ処理施設、②リサイクルプラザ」③最終処分場の3施設を1箇所に一体的に整備する計画です。

それぞれの施設の概要は次のとおりです。

(1) 可燃ごみ処理施設

可燃ごみ処理施設は、「燃えるごみ」とコミュニティ・プラントや農業集落排水処理施設などからの「汚泥」をあわせて処理します。処理方式については、南但地域に最も適した方式を選定するべく、現在検討を進めています。

なお、生ごみ、汚泥などの有機物については、微生物の働きによりメタンガスを作るバイオマス処理についても検討しています。

排ガスについては、最新の技術を用いて処理を行い、環境への影響をできるだけ抑制します。

また、施設からの排水は、処理後焼却炉の冷却水として再利用します。

(2) リサイクルプラザ

リサイクルプラザは、ごみを資源化するリサイクル設備と啓蒙・研修の場となるプラザ（広場）設備とで構成されます。

リサイクル設備には、不燃ごみと大型ごみを破砕した後、資源物・可燃物・不燃物に分別するラインと、資源ごみを必要に応じて選別・圧縮するラインを設け、資源物はストックヤードに保管します。

プラザ設備には、まだ使用できる程度の状態でごみとして出されたものを修理、再生する再生工房や再生品の展示ホール、会議室、学習コーナーなどを

備える計画としています。

(3) 最終処分場

最終処分場は、資源化できない不適物などを埋め立てる場所です。

この最終処分場については、地下浸透など施設の外への汚水の流出を防止するため、法律により構造が定められており、底面および側面には水を通さない2重のシートを敷きます。このため、最終処分場内に降った雨水を地下に浸透することなく集水し、併設する浸出水処理施設で処理後、放流する計画にしています。なお、シートには漏水検知装置をつけることによって、漏水した場所を修復できます。

(4) 施設規模

可燃ごみ処理施設（処理能力） 約70トン/日

リサイクルプラザ（処理能力） 約30トン/日

最終処分場（埋立容量） 約52,000m³（15年間）

(5) 用地面積 約50,000m²

表1

ごみの種類		排出方法	備 考
可燃ごみ		指定袋に入れる	
資源 ご み	かん類	裸のままステーションの回収かごに入れる	
	びん類	裸のままステーションの回収かごに入れる	排出時に無色透明、茶色、その他の3色に分別する
	ペットボトル	裸のままステーションまたは回収拠点のボックスに入れる	
	古紙類	紐がけにする	養父市のみ収集を行う
	プラ製容器梱包	今後検討する	新たに分別する
不燃ごみ		裸のままステーションの回収かごに入れる	
有害ごみ		今後検討する	乾電池に加え、蛍光灯、電球、水銀使用製品を新たに分別する
大型ごみ		—	養父市ではステーションによる定期収集、朝来郡では申し込みによる各戸収集とする

ホームページ開設についてのお知らせ

南但広域行政事務組合では、平成16年12月からホームページを開設し、組合の紹介とこれまでの取組状況などをお知らせしています。下記のURLからご覧ください。

URL : <http://www.fureai-net.tv/nantankoiki/>